

“変人”恋愛小説家の恋をかなえた喘息治療

映画・医療ライター こもり 小守ケイ

マンハッタンのレストラン。「卵3つの目玉焼き、ソーセージ、ポテトフライ、パンケーキ、コーヒーと人工甘味料」。毎日同じ席に座って持参のプラスチック製ナイフとフォークで食べる常連客、恋愛小説家メルビン・ユードルがいつものランチを注文すると、馴染みのウェイトレスのキャロルが「栄養偏向で死ぬわよ！」と軽口を叩く。メルビンも「人間は皆死ぬ。僕も君も、君の息子も」と応じるが、彼女は一転「今度息子の話をしたら出入り禁止よ！」と真顔で怒る。

「坊やは病気か?」。その後メルビンが改めて聞くと、キャロルは「生後半年からひどい喘息で呼吸困難、ほこりのアレルギー、免疫性の弱い体質。月に5、6回は救急病棟へ駆け込み、新米医師の手当てを受けるのよ」。

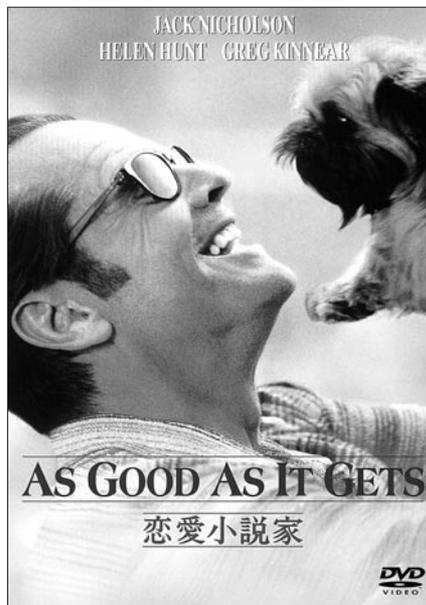
映画「恋愛小説家」の主人公は、恋愛小説家として成功しているが素顔は手を石鹸と熱湯で何回も洗うほどの潔癖症、且つ、毒舌、偏屈な中年独身男メルビン。そんな彼が喘息の男児を持つ気の良いバツイチ女性のキャロルに恋して、人間性を回復していく心温まる喜劇。主役のJ・ニコルソンとH・ハントが共にアカデミー賞主演男優賞、女優賞を獲得した作品。

死に至ることもある喘息、親に不安

喘息とは何らかの原因で気管支の粘膜に生じた浮腫(むくみ)のせいで痰が増え、そのため気管支が収縮し息が吐きにくく、ゼイゼイという喘鳴を生じ、呼吸困難になる病気。世界で患者約3億人の身近な病気だが、毎年25万人もが死亡する“死に至る病気”とは意外に知られていない。患者は子供に多く、男児が女児より1.5倍多い。喘息児を持つ親はキャロル同様に常に死の不安を抱え、その上、子供に喘息の症状が現れると“仕事か子供かの究極の選択”を迫られるので、ストレスとともに経済的損失も大きい。

「なんて非常識な人なの！」

ある日メルビンは、マンション隣人のゲイの画家から入院中だけと小型犬を押し付けられる。ビニール手袋をして嫌々世話していたが、キャロルに「可愛い犬ね」と誉められると、途端に「お前は立派な犬だ」と目を細める。友人のいない彼には、毎日の彼女との会話は何よりの潤いだ。



©1997 TRISTAR PICTURES, INC. ALL RIGHTS RESERVED.
 ©1998 LAYOUT & DESIGN, COLUMBIA TRISTAR HOME VIDEO.
 ALL RIGHTS RESERVED.
 "ACADEMY AWARDS®" IS THE REGISTERED TRADEMARK AND SERVICE
 MARK OF THE ACADEMY OF MOTION PICTURE ARTS AND SCIENCES.
 発売：(株)ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント
 写真：小型犬を抱き上げるメルビン

映画「恋愛小説家」

J・ブルックス監督、1997年、米国

そんな彼女が店を休んだ日。別のウェイトレスの給仕を拒んだメルビンは、キャロルの下町のアパートを探して「君が休んだせいで腹ペコだ」。彼女は「自宅にまで来るなんて!」と怒り心頭だが、傍らの息子の熱を測るや「待って! 悪いけど病院まで」と息子を抱えてメルビンの乗ったタクシーへ。

給仕して欲しさに専門医を派遣

数日後、なんと喘息専門医がキャロルのアパートに! 「ユードル氏の頼みで来た。貴女が職場復帰できるように坊やの病気を治せと」。驚く彼女を尻目に医師は丁寧に息子を診察、検査し、一方、彼女の記録から過去の治療は発作時だけで、アレルギー検査も皆無なことが分かったと愕然とする。そして今後の治療と回復の見込みを説明、「費用はご心配なく。ユードル氏が払うと」。彼女の顔が明るくなる。

喘息治療は以前は発作時だけの緊急治療で、気管支拡張薬などで発作を治め発作の誘因を除くことが主だった。しかし、小児の場合は気管支の過敏性が高く、アレルゲン（アレルギーを起こす物質）を吸入すると喘息発作が起きることが分かったので、現在はまず皮膚反応や血液免疫反応のアレルギー検査でアレルゲンを特定の上、発作の有無に関係なくアレルゲンを除去し、ステロイド吸入薬などで“発作を起こさせない治療”を行う。その結果、喘息児も健常な子供と同じ生活が可能になったので、キャロルの息子も適切な治療さえすれば元気になり、彼女も“喘息児の親”の肩の荷を下ろせるはずだ。

「良い人間になりたくなった…」

「本当は親切な方なのね」。キャロルが息子の回復に感謝すると、メルビンは「僕にも頼みが」と、退院した隣人の画家を郷里に送るのを頼まれたことを口実に「ゲイとの旅は心配。一緒に行ってくれないか?」と誘う。

旅先のホテル。キャロルが息子の「サッカーでゴールしたよ!」という電話に弾け、メルビンをデートに誘う。彼には千載一遇のチャンスだが、毒舌や暴言で自分を隠してきた身、悲しいかな真の気持ちが言えない。彼女の「なぜ私を旅に?」にも「ゲイの画家を紹介するため」と心にもない事を口走り、デートは台無しに…。

「恥をかいてもいいから告白しろよ」。見かねたゲイの画家の後押しで愛を告白したメルビン、めでたくキャロルと結ばれる。

監修：東京通信病院 副院長・内科部長 みや ざき しげる 宮崎 滋

